



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2021年2月14日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:0名

指導員:3名

## テーマ 「葉が落ちて見えてくるもの」

陽射しは何となく春めいてきましたが、新型コロナの緊急事態宣言が発出されているためか、138タワーパークの人出は今一つといった感じで、観察会も指導員3人でした。

例年なら駐車場周辺のクロガネモチに赤い実が残っていて、ツグミやヒヨドリがついばみに来て飛び交っているのですが、今季は既に実がありません。昨年は3月にレンジャクの群が飛来した時にもあったのですが、今季は野鳥の餌となる実が不作だったのでしょうか。

さて、この日のテーマは「葉が落ちて見えてくるもの」です。駐車所周辺のユキヤナギやレンギョウの枝を探すと、オオミノガの糞、オカマキリとハラヒロカマキリの卵嚢が数個ついていました。また、スカシダワラ(透かし表)と呼ばれるクスサンの繭も見られました。クスサンは秋に羽化して、卵で越冬するという事なので、中に残っている蛹はどうやら羽化できずに残ったもののようです。葉が落ちると、枝についた白いカイガラムシも目立ちます。これまでイセリアカイガラムシ(ワタフキカイガラムシ科)と



(葉が落ちて目立つようになったネムノキの実)

思っていました。参加者からハカマカイガラムシではないかとの指摘をうけました。ネットで調べると、ワタフキカイガラムシ科とは別にハカマカイガラムシ科があることが分かりました。この仲間の図鑑がそろっていないので、種名はしばらくおあすけです。詳しい方がみえましたらご教授をお願いします。

川原のネムノキは葉がすっかり落ちて、薄い鞘状の実が目立ちました。鞘の中の種子をルーペで観察しました。

また、キツネの巣穴近くのエノキにはツルウメモドキが稍まで巻き付いていました。葉がついていた時にも赤と黄色の実があることには気づいていましたが、葉が落ちてみるとずいぶん大きな株だったことが分かりました。

途中、鳥や蜂の仲間の巣もありましたが、秋にはもっと多かったので、意外と早く落ちてしまうようです。

鳥はというと、ここでは例年10羽から数10羽の群が見られるシメが、今季は少なく、この日は1羽単独で出現しただけです。ホタルの幼虫が放流される水路にコサギが1羽餌を探していました。非常に小さな個体で、参加者は皆、小さいと言っていました。

この日は日当たりのよい場所で、セイヨウミツバチやテングチョウが飛んでいましたが、来月はもっと多くの種類の虫が動き回っていることでしょう。(報告:齋竹)

### <その他観察できたもの>

鳥:ツグミ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、コゲラ、ジョウビタキ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、モズ、カワラヒワ、ホオジロ、スズメ、トビ、オオタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラ、ウグイス(声)

花:オオイヌノフグリ、ニホンタンポポ、コハコベ、ミチタネツケバナ、ホトケノザ、ウメ、ヤブツバキ、ミヤマウグイスカグラ、ベニバナトキワマンサク



ハラヒロカマキリ卵嚢



羽化に失敗したスカシダワラ



カイガラムシの仲間-種名は?



キジバト(?)の巣